

ベトナム 日本へのバナナ輸出が増加

[FreshPlaza 2025年8月11日](#)

フィリピンからの供給が減少する中、日本の小売店ではベトナム産バナナが存在感を増している。日本の貿易統計データによれば、ベトナム産バナナの輸入量は2024年に3万3千トンに達し、2019年のほぼ14倍となり、日本におけるベトナムの市場シェアは0.2%から3.2%に増加したと「日経アジア」は報じている。

2025年7月の東京圏へのベトナム産バナナの輸出量は2024年の同時期と比較して2倍以上に増加した。

ベトナム産バナナが日本の総輸入量に占める割合は依然として小さいものの、この成長によりフィリピン産バナナの長年の優位性は低下している。フィリピン産の市場シェアは、2010年代初頭の90%から2024年には約75%に低下した。ベトナムは現在、フィリピンとエクアドルに次ぎ、日本への第3位の供給国となっている。

業界の代表者らによれば、ベトナムの出荷量の増加は競争力のある価格設定と安定した品質によるものである。ある食料品チェーンは、ベトナム産バナナはフィリピン産よりも約10%安く販売されると報告している。ある青果物卸売業者の代表は、「ベトナムは比較的最近バナナの栽培を始めたため、まだ病害が蔓延しておらず、品質も高い」と述べている。

ベトナム産バナナはまた、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)に基づく関税引き下げの恩恵も受けている。ベトナム産バナナに対する現在の日本の関税は5.4%であり、2028年には全面的な撤廃が予定されている。

これに対し、フィリピン産バナナの関税は、季節によって異なるものの8~18%のままであると予想されている。この差異は、今後数年にわたり日本市場におけるベトナムの価格優位性を高める可能性がある。

出典: VNExpress

台湾 中国の関税が米国産サクランボの価格を押し下げ

[FreshPlaza 2025年8月11日](#)

中国が米国産サクランボに課した58%の関税により、台湾におけるサクランボの価格が下落し、小売価格は1箱当たり200台湾ドル(7米ドル)未満となった。

台湾においては通常、米国から輸入されたサクランボは、1箱当たり最大300台湾ドル(10米ドル)で販売されている。しかし、米中貿易紛争による高関税のため供給がシフトし、米国産サクランボの中国向け輸出が減少し、ベトナム、香港、台湾への出荷に転用された。その結果、今シーズンのサクランボは、市場、スーパー、果実店において割安な価格で広く入手できるようになっている。

昨年の小売価格である1箱当たり300~400台湾ドル(10~13米ドル)と比較すると、現在の価格は30~50%低い。ベトナムでは、サクランボの価格が例年比で50%下落し、一方、香港での価格は20年ぶりの低水準に達した。

米国では今シーズンの良好な気象条件により、サクランボの生産量が前年比で約8%増加した。台湾での卸売価格は10~15%下落した。

サクランボの季節が終盤に近づくにつれ、台湾のバイヤー達は価格の安さを活用して例年よりも多くの果実を購入している。

出典: Rti News